

令和８年度 府中市立府中第九小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第５学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	- 人物の心情を想像する際、根拠となる叙述を明確にして説明するのが苦手な児童がいる。 - 文章作成に苦手意識を感じる児童が多い。	- どんな工夫をして音読するとよいか話し合って実践する場面を繰り返し設けることで、教材文を読み深められるようにする。【対話】 - 心情を表す言葉や情景描写の前後の文章を紹介し、読み取り方を随時行う。【発見】 - 書き方を教えつつ、自分の書きたい意欲をかきたてながら、書く習慣を続ける。【表現】		
算数	- 四則計算が正確にできない児童が多い。特にわり算の筆算のしかたに課題がある。 - 何を求めればいいのか、図や表などから直感的にわかる問題は良いが、長文の文章題など論理的に考える問題を苦手とする児童が多い。	- 学習の最後に練習問題を解く時間を設け、計算力の向上を図る。【決定】 - 問題文を最後まで音読させる。問題場面を線分図等で表し、立式しやすくする。【表現】		
理科	- 根拠ある予想や実験方法を自分で考えることに課題がある。 - 予想や仮説などをもとに質的变化や量的変化、時間的变化に着目して解決の方法を発想することが難しい。	- 予想や方法をまず自分で考えるのではなくペアで話し合わせたり、全体である程度意見を出し、その中から自分で選択できたりするような形を取り入れる。【対話】 - 根拠のある予想を基に、観察、実験を行い、自ら発想した予想と得られた結果を比較して考察する活動を繰り返す。【表現】 - 何を見せたいのか、何に気付かせたいのかの視。点を明確にして、目的や問題意識のある活動にする。【発見】		
社会	- 問題に対して意欲的に調べることができるが、人や生産者の思いや努力まで考えることが難しい。 - 視点をもってグラフなどの資料を読み取ることが難しい児童がいる。	- インタビュー資料や動画を活用し、生産者等の思いに触れることができるようにする。 - デジタル教科書の活用し、グラフなどの資料では、大きく変化があったところ、他の物より特出しているところに視点を当てるように全体で共有する。【発見】 - 資料から気付いたことや疑問やつぶやきから学習問題をつくることを授業の流れに入れる。【対話】		
音楽	リコーダー等の楽器の学習では、ねばり強く取り組むことに課題をもつ児童がいる。	拡大楽譜やビックパットを活用し、演奏を分かりやすく提示する。また、ペアの学習でお互い聞き合ったり学び合ったりする活動を通して、自信をもって表現できるように苦手意識をもっている児童には特に丁寧に対応していく。【対話】【表現】		
図画工作	- 材料からイメージを広げていくことに苦手意識がある。 - 既習の絵具の技法を様々な課題で応用できるようにする必要がある。	- 材料の持つ面白さを試しながらそれぞれのイメージする力を高める。児童同士で発想したことをビックパットで共有させることで表現を深める。【発見】 - 既習の絵具の使い方をいつでも振りかえられるように、掲示し、道具を使いやすい環境を作る。【対話】		
家庭	調理実習に対しては意欲的だが、それまでの調理の流れや工夫などの具体的なイメージをもつことが難しい。	教室だけではなく、家庭科室にもビックパットを導入し、調理前に映像などで視覚的に分かりやすくイメージをもたせる。【発見】		
体育	- 技能のポイントを理解することはできるが、学び合いながら技能を高めることに課題がある児童が多い。 - 自分の学びの状況に合った課題を立てることが難しい児童がいる。	- 資料や ICT を活用して、コツや改善方法をよりよく伝えられるようにする。【対話】 - 課題把握表を作成し、ICT と連動して自分の学びの状況を捉えることができるようにする。【決定】		
外国語	- 皆の前で英語で発音することに対して苦手意識をもつ児童がいる。 - アルファベットを覚えて、書くことが難しい児童がいる。	- ペアから始め、簡単な会話から、相手に自分の思いが伝わる楽しさを感じる経験をさせる。【対話】 - タブレット端末を活用して、アルファベットを書くことをゲーム感覚で取り組ませる。【表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。